

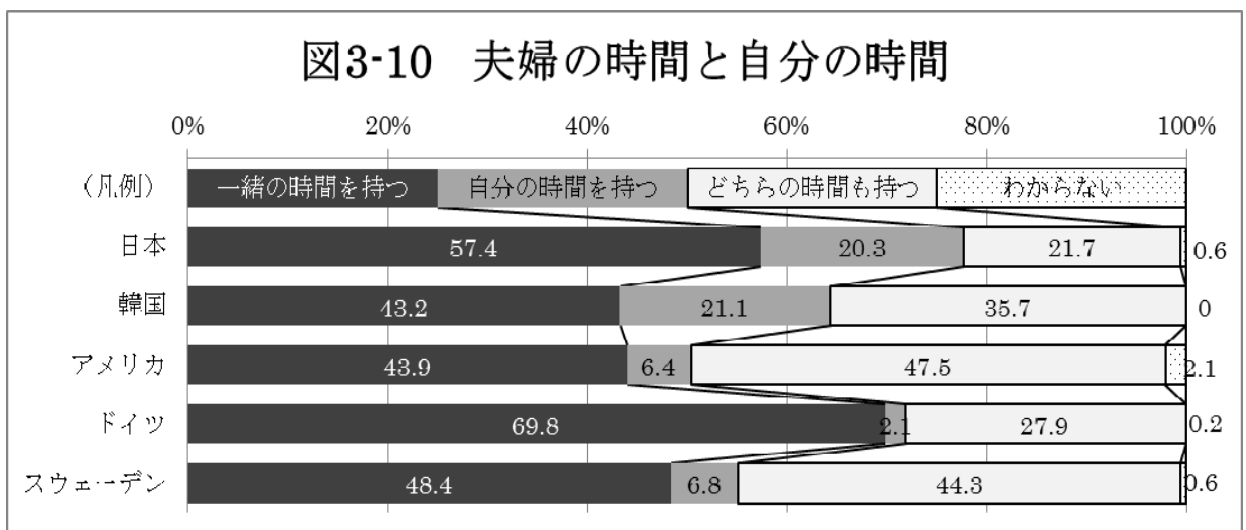
### Ⅲ 夫婦の時間・個人の時間 (Q2)

#### 1 調査結果の概要

日常生活において、「夫婦一緒に過ごす時間」と「自分のための時間」のどちらをより多く持とうとしているのかをたずねた。図3-10は、この回答結果につき単純集計の結果を示したものである。アメリカ以外の4カ国では、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」という回答が最も多く、比率の高い順から、ドイツ 69.8%、日本 57.4%、スウェーデン 48.4%、アメリカ 43.9%、韓国 43.2%という結果であった。アメリカは夫婦一緒と自分のための「どちらの時間も持つ」という回答が 47.5%を占め、「夫婦一緒に過ごす時間を持つ」の比率をわずかにしのいでいた。

この「どちらの時間も持つ」という回答は、アメリカに次いでスウェーデンが 44.3%と高いのに対し、日本は 21.7%と最も低い値にとどまった。「どちらの時間も持つ」という回答は、「夫婦一緒に過ごす時間を持つ」ことを否定しているわけではない。したがって、アメリカの回答傾向が必ずしも特異とはいえないだろう。

一方で、「夫婦それぞれが自分のための時間を持つようにしている」という回答は、夫婦関係の個人化傾向の一端をうかがい知る指標ともなる。この回答の比率は、韓国 (21.1%) と日本 (20.3%) が相対的に高く、欧米3か国では 10%未満の低い値を示していた。



## 2 時系列的変化

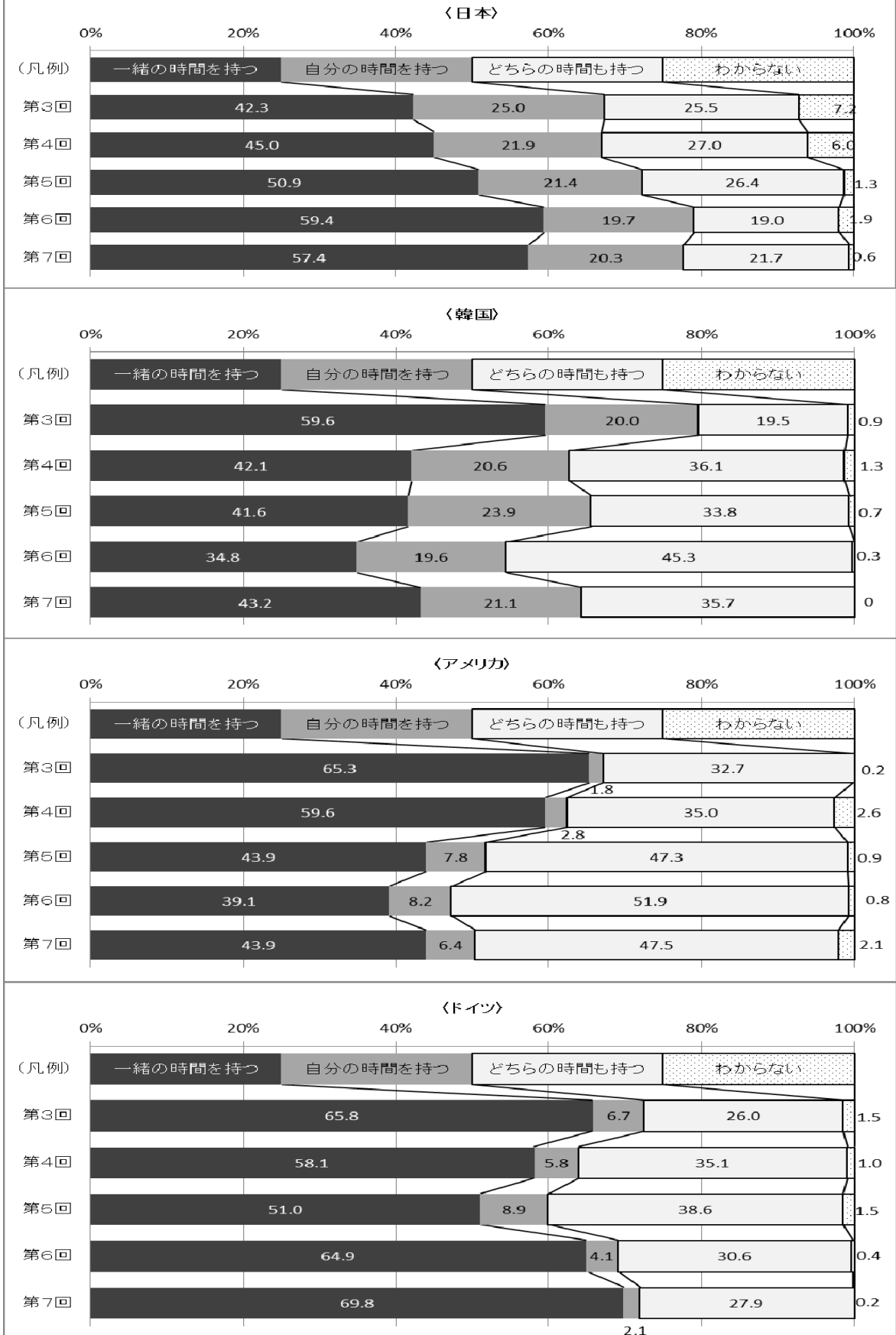
この設問は、第3回調査以降、継続的に用いられており、スウェーデン以外の4カ国については5回の調査結果における変化をたどることができる。図3-11は、4カ国におけるその単純集計結果を示したものである。

まず日本の結果をみると、第3回調査以来、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようになっている」が一貫して多数派であるとともに、おおむね増加傾向を示しており、5回の調査を通じてその比率は、42.3%から57.4%へと15ポイントほど上昇している。日本人の夫婦関係に関しては、固定的な性別役割分業とこれと関連の深いコミュニケーションの希薄さはしばしば指摘されるところだが、少なくとも現代の高齢者夫婦に関しては、夫婦で過ごす時間を重視しようとする態度はきわめて強くなったといえる。

このような日本の傾向に対し、韓国、アメリカ、ドイツの3カ国はおおむね類似したパターンを描いている。いずれの国でも、第3回調査において3分の2程度が「夫婦一緒に過ごす時間を持つようになっている」と回答して多数派を占めていたものが、徐々に減少をみせ、しかし第6回もしくは第7回調査で再び増加に転じている。ただし、第7回調査における「夫婦一緒に過ごす時間を持つようになっている」という意見の支持状況は、ドイツが69.8%と高いのに対し、韓国は43.2%、アメリカは43.9%にとどまっている。前述の通り、アメリカではむしろ「どちらの時間も持つ」が47.5%と、多数派を占めていた。

前項でも指摘したように、日本の特徴としてもう1つ注目されるのは、韓国と並んで「夫婦それぞれが自分のための時間を持つようになっている」という回答が、アメリカ、ドイツに比して相対的に高い比率を占めることである。このような傾向は、日本、韓国ともに第3回調査から確認できる。日本の場合、その比率は5回の調査を通じて25.0%から20.3%へと5ポイントほど下がってきているとはいえ、なお一定の割合を占め続けている。

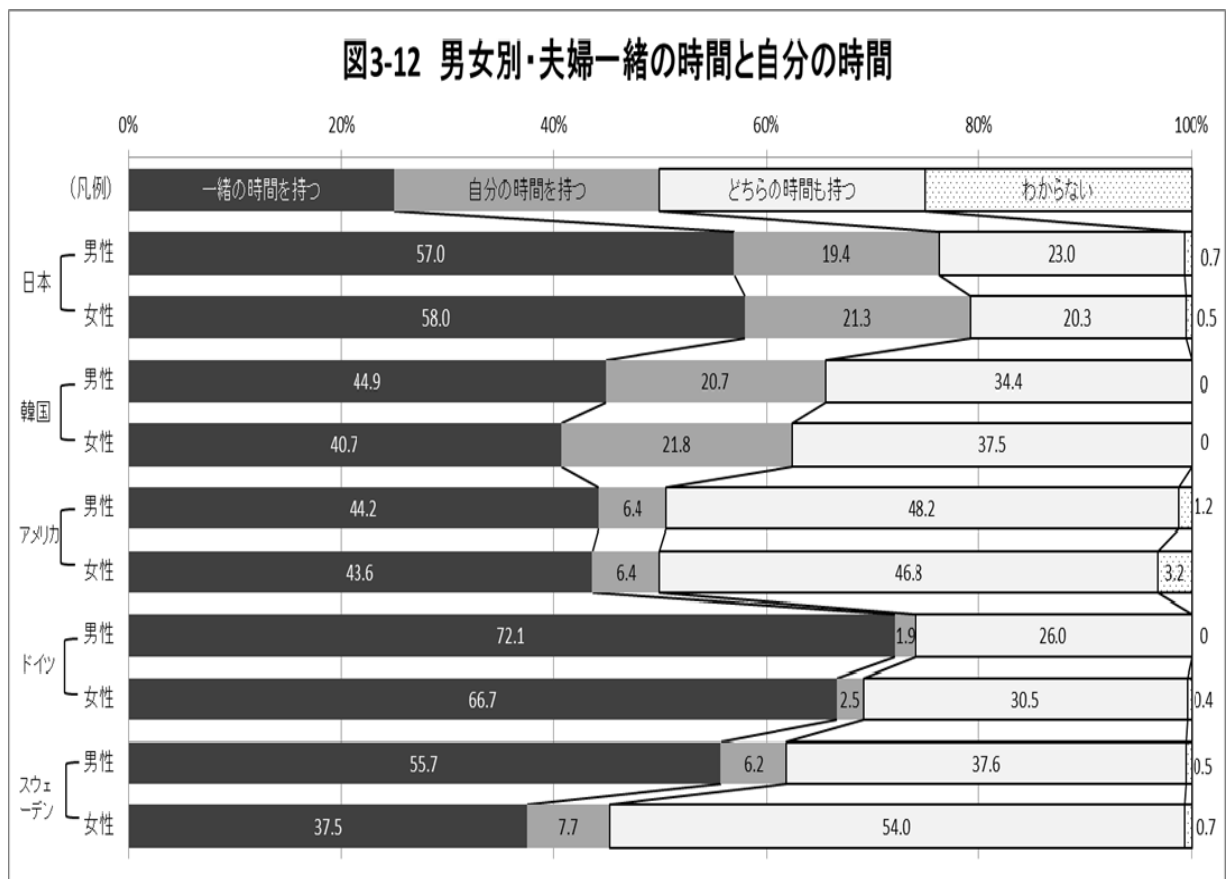
図3-11 調査年次別・夫婦の時間と自分の時間



### 3 男女別比較

図3-12は、各国のこの設問に対する回答を男女別に示したものである。スウェーデンを除く4カ国については、顕著な男女差はみいだせず、むしろ国による差異のほうが大きい。日本の場合は、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」は男性57.0%、女性58.0%、「夫婦それぞれが自分のための時間を持つようにしている」は男性19.4%、女性21.3%、「どちらの時間も持つようにしている」は男性23.0%、女性20.3%と、いずれも近似した値を示していた。韓国、アメリカ、ドイツに関しても、各回答につき男女差があるとすると5ポイント程度にとどまっている。

唯一、男女差が比較的目標立つ国はスウェーデンである。「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」は男性55.7%、女性37.5%、「どちらの時間も持つ」は男性37.6%、女性54.0%と、男性のほうが夫婦一緒の時間をより重視する傾向がみられた。



#### 4 年齢階層別比較

前述したように、この設問に対する回答は、スウェーデンを除き大きな男女差はみいだせない。またこの設問は夫婦そろっている人に限定してたずねているため、年齢階層と性別の両変数を組み合わせてグループ分けすると、とりわけ高年齢層の部分でサンプルが少なくなる。そこでここでは、男女込みにして年齢階層のみによる傾向の違いをみていくことにする。

図3-13によると、まず日本では、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」とする人の比率がどの年齢層でも最も高い。そして、年齢階層が高くなるにしたがってその比率は増していき、80歳以上の最も高齢な層では74.3%を示している。年齢階層別にみた「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」の回答傾向に関して、日本と類似した動きを示すのが、韓国とドイツである。60歳代前半と80歳以上におけるこの意見の支持率をみると、韓国では41.5%から55.9%へ、ドイツでは65.7%から80.0%へと増加している。ただし、これら3カ国の内、日本とドイツではこの意見が圧倒的に支持されているのに対し、韓国では総数レベルで半数弱と意見の多様性が目立った。

一方、アメリカとスウェーデンでは、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」と「どちらの時間も持つようにしている」という二つの意見への支持が拮抗している。スウェーデンではこれら両意見が、60歳から79歳までほぼ同比率で推移していたものが、80歳以上になると、「夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている」が64.7%へと一気に支持率を高める動きを示す。アメリカでは加齢とともに不規則な動きを示しつつ、最も高齢層の80歳以上ではいずれも45%前後とほぼ同率に落ち着いている。

図3-13 年齢階層別・夫婦の時間と自分の時間

